

科目 4 そば打ちの身体学・心理学・論語

受検番号

氏名

Q1. そば打ちにおいては、身体になるべく負担をかけず、効率の良い動作を行う必要があります。そのために大切な要素について、体重の利用、台の高さ、足の位置、リズムについて注意点をそれぞれ簡潔に書いてください。

《体重の利用》延しの場合、肩と手を結んだ線が延し台に対して90～45°の範囲で延す。この動作により体重は効率的に伝わる。肘は少し曲がっていた方がよい。《台の高さ》木鉢の場合、台に載せた木鉢の底面が起立した際の指の高さになるようにする。延しの場合、延す面が中指の第一関節と第二関節の間に来るようにする。《足の位置》練りの場合、右利きならば右足を前にして、左右の足を前後にずらして位置させる。握ねや延しの場合、左右の足を肩幅程度に均等に開いて立つ。切りの場合、右利きならば右足をやや後ろに引く。《リズム》切りをリズムカルに早

く 行 う に は 、 右 手 と 左 手 の 連 携 動 作 が 重 要 。

練 り を リ ズ ミ カ ル に 行 う に は 、 下 肢 を 使 っ て

上 半 身 を 前 後 に 動 か す こ と が 重 要 。

Q2. EQ(こころの能力、非認知能力)という概念があります。
あなたは、所属する団体の発展のため、あるいは自身の
そば打ち活動のためにこの概念をどのように用いますか？

EQ の 分 類 に 、 組 織 力 、 連 帯 力 、 交 渉 力 、 分 析

力 が あ る 。 こ れ は 所 属 団 体 発 展 に 求 め ら れ る

能 力 で あ る 。 具 体 的 に は 、 組 織 の 維 持 を 図 っ

て い く た め に 団 体 内 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を

深 め る こ と 。 所 属 団 体 内 の 各 人 の 意 思 を 尊 重

し 連 帯 力 を 高 め る こ と 。 イ ベ ン ト 活 動 や そ ば

教 室 開 催 等 の た め に 公 共 機 関 等 の 担 当 者 と 交

渉 す る こ と 。 活 動 結 果 を 分 析 す る こ と に よ り

中 身 の 濃 い 活 動 に 育 て て 行 く こ と で あ る 。 ま

た EQ は 、 自 ら の そ ば 打 ち 活 動 を 充 実 さ せ る た

め の 能 力 で あ る 。 具 体 的 に は 、 そ ば 打 ち 教 室

開 催 に あ た り 初 心 者 に ど の よ う に 教 え て い け

ば 効 果 的 か 、 そ ば 打 ち の 楽 し さ を 伝 え る に は

何 回 開 催 が 必 要 か 、 自 分 の 教 え 方 で 生 徒 が そ

ば打ちを好きになってもらえると信じられる
か、生徒がうまく打てなくても忍耐強く教え
ていけるかなどの能力である。

Q3. 中国の古典である『論語』の言葉は、日本人が志を持ち、目標を実現するためのメンタル面として影響を与えました。昔から伝わるものを再度自分で学び直して、そこから何かをつかみとることの大切さが「温故知新」です。

A 微生高という人物を孔子は正直者と見ているか、正直者ではないと見ているか。

B. Aを選んだ理由を「温故知新」の精神を大切にして、解釈、説明を参考にしながら、自身の言葉や体験を活かして自由に説明しなさい。

孔子は微生高を正直者で思いやりのできる人物ではないかと見ている。ある人がお酢を求めてきた際、彼はわざわざ隣里までもらいに行き、そのままその人に渡したとも解釈できるからである。孔子はそのような行為はなかなかできるものではないと感嘆の念を抱いているのではないか。単純に解釈すれば、自分の家にお酢がなかったからわざわざ隣人にもらいに行ってそのまま渡したと読みとれる。そんな見栄っ張りな人物を孔子は評価するのだろうか。おそらくお酢を求めてきた人は、お金がなかったのではなく、足が不自由で、

